

経 済 港 湾 委 員 会 記 録 (No.2)

1 日 時 令和7年3月11日(火)
午前10時01分 開会
午前10時13分 閉会

2 場 所 第3委員会室

3 出席委員(9人)

委 員 長	渡 辺 修 一	副 委 員 長	三 宅 まゆみ
委 員	菊 地 公 平	委 員	上 野 照 弘
委 員	香 月 耕 治	委 員	富士川 厚 子
委 員	大 石 正 信	委 員	松 尾 和 也
委 員	井 上 しんご		

4 欠席委員(0人)

5 出席説明員

産業経済局長	柴 田 泰 平	企業立地・農林水産担当理事	山 口 博 由
港湾空港局長	佐 溝 圭太郎		外 関係職員

6 事務局職員

調 査 係 長	筒 井 大 亮	書 記	西 嶋 真
---------	---------	-----	-------

7 付議事件及び会議結果

番号	付 議 事 件	会 議 結 果
1	議案第61号 市有地の処分について	可決すべきものと決定した。
2	議案第63号 令和6年度北九州市一般会計補正予算（第6号）のうち所管分	
3	議案第66号 令和6年度北九州市港湾整備特別会計補正予算（第1号）	
4	所管事務の調査について	調査事件の選定について、委員間での討議を行った。

8 会議の経過

（東日本大震災の犠牲者への黙とうを行った。）

○委員長（渡辺修一君） それでは、開会します。

本日は、議案の採決及び所管事務の調査を行います。

初めに、議案第61号、63号のうち所管分及び66号の以上3件を一括して議題とします。

これより採決を行います。

まず、議案第61号及び66号の以上2件について、一括して採決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり。）

御異議なしと認め、一括して採決します。

議案2件については、いずれも可決すべきものと決定することに御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり。）

御異議なしと認めます。よって、議案2件についてはいずれも可決すべきものと決定をいたしました。

次に、議案第63号のうち所管分について、可決すべきものと決定することに賛成の方の挙手を求めます。

（賛成者挙手）

賛成多数であります。よって、本件については可決すべきものと決定いたしました。

以上で議案の審査を終わります。

なお、委員長報告については正副委員長に一任願います。

ここで執行部説明員は退室を願います。

（執行部退室）

次に、所管事務の調査を行います。

調査事件の選定について、委員の皆様からいただいた項目を取りまとめて、お手元に配付を

しております。この案について意見を伺いたいと思います。

それでは、意見はございませんか。大石委員。

○委員（大石正信君） 私は、中小企業の振興について提案させていただきました。今、昨日の議論でもあったように、消費税、インボイス、物価高騰ということで、北九州で99.7%が中小企業、雇用者数では8割と言われているように、成長戦略とか計画でも北九州市の生産性向上、GDP 4兆円、雇用者報酬500万円と掲げているんで、やっぱり中小企業が圧倒的に本市の経済を支えていると。そこに対して予算も非常に少ないし、支援策がかみ合っているかという問題もありますので、そういう意味で、倒産数も2021年48件、2022年57件、去年に入って80件と増えているんですよ。インボイスの問題、さっき言った物価高騰の問題もあるんですね。経済の問題とか港湾と空港とバランスよく3つぐらい入って、幅広く議論できるようなですね。狭くすると偏ってしまうという問題があると思うんで、その3つぐらいを入れて所管事務調査やった方がいいんじゃないかなと思っています。以上です。

○委員長（渡辺修一君） ありがとうございます。先ほど、大石委員の御提案のとおり、3件ぐらいでまとめていきたいなと思っております。ほかに御意見ございませんでしょうか。上野委員。

○委員（上野照弘君） 本市の農業、漁業振興とナイトタイムエコノミーについてという項目を上げさせていただいております。選んだ理由といたしましては、市内の農業、漁業の振興を推進するとともに、ナイトタイムエコノミー推進の観点から市内産農作物、水産物の市内飲食店での利用を促進して、市内外へ本市の食の魅力を改めて発信していくことが重要であるためと考えたからであります。今議案で関連する事業としましては、ナイトタイムエコノミー推進プロジェクトであったり、新規就農支援強化事業、美味しいおさかな発掘PR事業、そして、すしの都北九州ブランド発信事業というのもありますし、経済港湾委員会としては継続してやっていくべき内容じゃないかなと思ったので、こういうふうに記載させていただいております。よろしくお願いします。

○委員長（渡辺修一君） ありがとうございます。ほかに。菊地委員。

○委員（菊地公平君） 私は、ハラルに対応した経済政策というのを上げさせていただきました。一般質問でもさせていただいたんですが、今後、世界のバランスの中で圧倒的に存在感が高まっていくムスリムに対してのビジネスチャンスというのを北九州としては、模索していくべきだというふうなところから始まっているんですけど、これは波及の範囲としては、かなり経済関係が広くて、インバウンドであったりとか、港湾の輸出入であったりとか、新しい航空路線の就航って話にもなりますんで、ちょうど経済港湾委員会で取り扱うには幅広く見ることができるので、こういったテーマがいいんじゃないかなと提案させていただきました。以上です。

○委員長（渡辺修一君） ありがとうございます。ほかに。富士川委員。

○委員（富士川厚子君） 私は、会派で2人で一緒に考えさせていただきました。3点あって、

一点は地域経済の成長とにぎわいの創出と農林水産業の活性化についてです。にぎわいづくりを創出することが産業の活性化、新たな雇用の機会の創出、地域資源の活用、観光、交流の促進など多角的な取組が必要であると思いますし、農林水産業は高齢化や担い手不足、気候変動など課題を抱えております。持続可能な発展を実現するためには、新技術の導入、6次産業化、観光、海外市場との連携など多角的なアプローチが必要ではないかと思っ、書かせていただきました。

次に、港湾空港機能（洋上風力発電事業を含む）の強化についてですが、洋上風力発電の拡大に伴い、港湾の役割はさらに重要になってくると思います。また、北九州空港の機能強化を目指すには貨物輸送機能の強化、LCC、インバウンド、スマート空港化など、港湾空港機能の強化と洋上風力発電事業の拡大は、北九州市の経済成長と脱炭素化を同時に進める鍵となる取組であるかと思ひます。

次に、公営競技を活用した観光振興と地域貢献ですが、スポーツ観戦、地域の魅力発信、インバウンド対応など観光振興に活用できる要素を多く持っていますし、レース観戦を中心に地元資源との組合せを強化することで地域の活性化につなげることができると思ひ、書かせていただきました。以上です。

○委員長（渡辺修一君） ありがとうございます。菊地委員。

○委員（菊地公平君） 私が出したやつ、もう一点。臨港地区の活用によるまちづくりについてなんですけど、北九州市の都市計画の中で臨港地区というのは、かなりの面積を占めておりまして、こういった部分で、特に門司であるとか若松であるとか、町の範囲が限定されているという問題がありますので、若干、建設建築委員会に係るような部分もあるんですけども、臨港というのは港湾が担当ですので、臨港地区をもうちょっとまちづくりとして開発できる余地がないかというのを、法律的な分野であるとか規制の内容であるとか、そういったところを研究していく余地があるんじゃないかなと思ひております。特に影響が大きいのが門司、若松、戸畑、小倉北、この辺が臨港のエリアがかなり広いので、そういったところで一部使っていないようなエリアに新しい町を造っていったり、そういったところができないかという、そういったことを意図したものです。以上です。

○委員長（渡辺修一君） ありがとうございます。井上委員。

○委員（井上しんご君） 私は、東九州新幹線の整備と物流と産業振興について提案しました。長らく東九州新幹線は実現可能性も含めて塩漬け状態だったと思うんですけども、大分県知事が鳥栖ルートの提案をして以降、にわかに活発になってきています。今行われています県知事選挙でも、北九州出身の服部知事も日豊本線ルートだということで公約にも掲げられておりますし、今後議論が活発になってくると考えています。同じ新幹線を通すにしても、沿線での産業振興という部分が非常に国にとっても重要になってくると思いますし、そういう部分で今、地元北九州がしっかりとのろしを上げて議論に参加するというのが日豊本線ルートの建設促

進にもつながっていくんじゃないかと考えて提案しました。以上です。

○委員長（渡辺修一君） ありがとうございます。

いろいろ御意見ありがとうございます。今、御意見いただきました内容をまとめさせていただきたいと思っております。一応、経済港湾委員会として幅広く、大きく分けて3つ、まず経済の部分。また、港湾の部分ですね、空港の部分も含めていきたいと思っているんですけど、6月に特別委員会がどうなるかというところもありますので、空港も大きく含めたところの機能強化ですね、洋上風力発電も含めたところ。また、公営競技局も含めておりますので、そういった部分も含めた大きく3つに分けていきたいと思っています。

最初に、経済の部分なんですけれども、中小企業の部分とかナイトタイムエコノミー、稼げる町も含めて、ハラルに対応した経済対策も含めて、地域経済の成長とにぎわいに大きく関わってくるのではないかとといった部分で、最初の地域経済の成長とにぎわいの創出。また、農林水産業ですね、これは漁業振興とか、鳥獣被害も農林に関わってくるかと思っておりますので、そこも含めた地域経済の成長とにぎわいの創出と農林水産業の活性化で大きくまとめていきたいと思っておりますけれども、御意見いかがでしょうか。香月委員。

○委員（香月耕治君） いずれも重要な所管事務ということですが、いろいろと思いがあろうけど、ここは委員長と副委員長で最終的にまとめていただいたらなと思っておりますので、よろしくをお願いします。

○委員長（渡辺修一君） 御意見ありがとうございます。また、2番目に港湾空港、洋上風力も含めた機能なんですけど、これは物流ネットワークとしてまとめていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

3点目の公営競技局は、御意見といたしますか、案が上がってきませんでしたので、観光が経済港湾委員会は外れましたので、ここで公営競技局を含めた部分で観光振興とするとそういった部分の協議もできるかなと思っておりますので、大きくここもまとめさせていただきたいと思っております。

それでは、皆さんの御意見をまとめさせていただきまして、24日の委員会において改めて本案を調査事件として諮りたいと思っておりますけれども、御意見はいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり。）

ありがとうございます。それでは、副委員長と協議した上で御提案させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

以上で所管事務の調査を終わりたいと思います。

次回は3月24日午前10時から所管事務の調査を行います。

本日は以上で閉会をいたします。

経済港湾委員会 委員長 渡 辺 修 一 印